

平成27年度

全国学力・学習状況調査の結果

京都市立朱雀第三小学校

4月21日に、本校6年生60名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。この調査は、国語・算数・理科の3教科のテスト、同時に家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。その結果から、学力の様子や生活習慣について、本校の児童の様子をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語A・B、算数A・B、理科のすべての科目において全国平均を上回りました。特に国語・算数ともA（知識）の結果に比べてB（活用）のほうが全国平均を大きく上回っていました。また、無回答率が非常に低いことが目立っています。児童が自分の力を精一杯出し切ろうとしていることがよく表れている結果となっています。

国語科より

すべての問題において全国平均を上回っていました。中でも、文章で自分の考えを書く問題において（音読するときの工夫について書く）、登場人物の気持ちの変化をよく考えていることがわかりました。一方、シャワーを「あびる」を漢字で書く問題、主語と述語の関係を正しく捉える問題については、まだ十分力がついたとは言えない状況があります。

算数科より

全体的によくできているといえます。特に「なぜそう考えたのか」を数字や言葉を使って説明する問題では、全国平均を大幅に上回っていました。しかし、 180° より大きい角を測る問題や二等辺三角形の性質を円の性質と結びつける問題では全国平均を下回っています。特に図形が関係する学習の分野で、頭の中で「分かっている」と決めずに、実際に図を書くなどの復習が必要です。

理科より

すべての問題について全国平均を上回っており、よい結果であるといえます。各問題を見てみると、温度が変わっても体積変化が小さい金属を答える問題で「正しいものを選び、その理由を書く」など、自分の考えを文章で表す問題にとっても強いことが明らかになりました。ただ、植物の成長の様子や育つ条件を考える問題では、全国平均を上回っているものの、正答率が高いとは言えない状況があります。